

(広報資料)

# 平成26年度 交通事業決算概要

---

平成27年7月30日  
交 通 局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

# 自動車運送事業

## 1 決算概要

### ○ 累積資金不足を解消し、一般会計に頼らない「自立した経営」を実現

- ・ 最大で144億円(平成17年度)あった累積資金不足を解消し、7億円の資金剰余を計上
- ・ 中期経営方針の目標を1年前倒して、一般会計に頼らない「自立した経営」を実現

### ○ 1日当たり旅客数は、前年度比1万5千人増の34万1千人

- ・ 新運転計画の実施等により、近年にない大幅な増客を実現し、運送収益は前年度に比べ、7億円の増収
- ・ 過去5年間では、約3万人の増加を達成

### ○ 経常損益は、24億円の黒字を確保

- ・ 一般会計からの任意補助金(生活支援路線補助金4億62百万円)を全額執行抑制したうえで、24億円の経常黒字

### 平成26年度決算

経常収入	200億円
経常支出	176億円
経常損益	24億円
資金剰余额	7億円

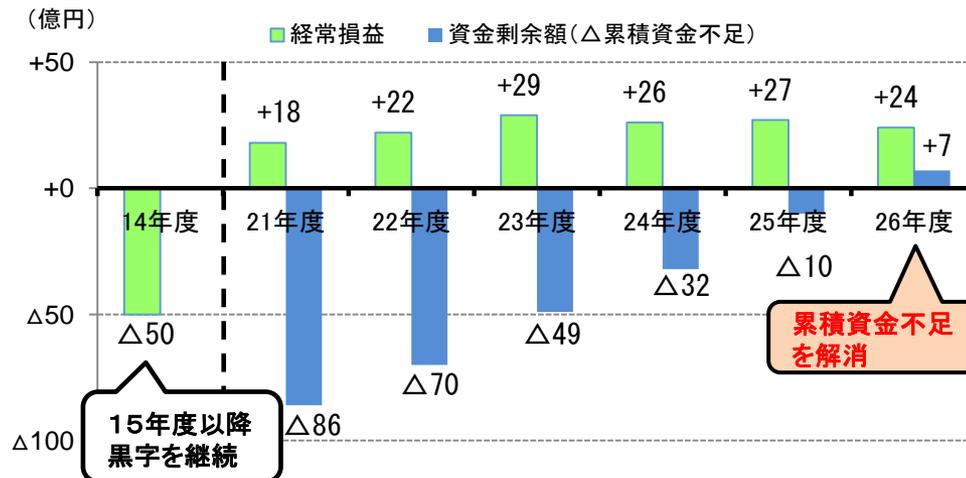
### (1) 旅客数の推移

(千人/日)

年度	21	22	23	24	25	26
旅客数	311	314	314	321	326	341
対前年度増加数	—	3	0	7	5	15

平成26年度は前年度比1万5千人増と、近年にない大幅な増客を実現

### (2) 経常損益及び累積資金不足等の推移



## 2 財政状況（前年度決算からの増減及び会計制度改正の影響）

（税抜額）

区分		25年度決算(A)		26年度決算(改正前B)		差引増△減(B-A)		26年度決算(改正後C)		改正影響額(C-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円
經常損益	営業収益	189	16	196	56	7	40	196	56		0
	うち運送収益	179	34	186	41	7	07	186	41		0
	営業外収益	6	65	1	92	△4	73	3	95	2	03
	うち一般会計補助金	6	42	1	52	△4	90	1	52		0
	うち長期前受金戻入額							2	03	2	03
	収入計	195	81	198	48	2	67	200	51	2	03
	営業費用	166	34	173	90	7	56	174	00		10
	うち経常人件費	64	38	66	85	2	47	67	20		35
	うち退職手当	4	02	3	49	△	53		0	△3	49
	うち退職給付引当金繰入額							1	30	1	30
うち経費	88	76	92	40	3	64	92	34	△	6	
うち減価償却費等	9	18	11	16	1	98	13	16	2	00	
営業外費用	2	00	2	41		41	2	45		4	
支出計	168	34	176	31	7	97	176	45		14	
差引	27	47	22	17	△5	30	24	06	1	89	
特別損益	1	08		0	△1	08	△39	07	△39	07	
再差引（純損益）	28	55	22	17	△6	38	△15	01	△37	18	
その他未処分利益剰余金変動額							7	39	7	39	
利益剰余金	18	20	40	37	22	17	10	58	△29	79	
資本的収支	収入	13	48	18	85	5	37	18	85		0
	支出	28	69	34	89	6	20	34	95		6
	うち建設改良費	15	42	24	54	9	12	24	60		6
差引	△15	21	△16	04	△	83	△16	10	△	6	
資金剰余額（△累積資金不足）	△9	91	7	38	17	29	7	38		0	
年度末企業債残高	52	53	60	83	8	30	60	83		0	

※ の箇所は、会計制度改正による影響があった項目及びその影響額である。

# 高速鉄道事業

## 1 決算概要

### ○ 経常損益の赤字が、9億円にまで縮小

- ・ 前年度に比べ32億円の収支改善，現金収支の黒字も過去最大の81億円に拡大（前年比8億円増）
- ・ 経営健全化計画を大きく上回る収支改善（経常損益：55億円赤字が縮小，現金収支：37億円黒字が拡大）

### ○ 資金不足比率は、14.8%まで改善

- ・ 経営健全化基準の20%を下回り，前年度の24.4%に比べて9.6ポイント改善
- ・ 経営健全化出資金の繰入れなしで安定的に20%を下回る見通しが立つまで，引き続き，経営健全化団体として，「京都市高速鉄道事業経営健全化計画」を推進

### ○ 1日当たり旅客数は、前年度比1万5百人増の35万9千人

- ・ 運輸収益は前年度比5億円の増収。過去5年間では約3万2千人の増加となり，経営健全化計画の目標である37万5千人の達成に向け着実に前進

### ○ 企業債残高は、4,000億円を上回り，依然厳しい経営状況

平成26年度決算

経常収入	320億円
経常支出	329億円
経常損益	△9億円
現金収支 (償却前損益)	81億円
資金不足比率	14.8%
企業債等残高	4,067億円

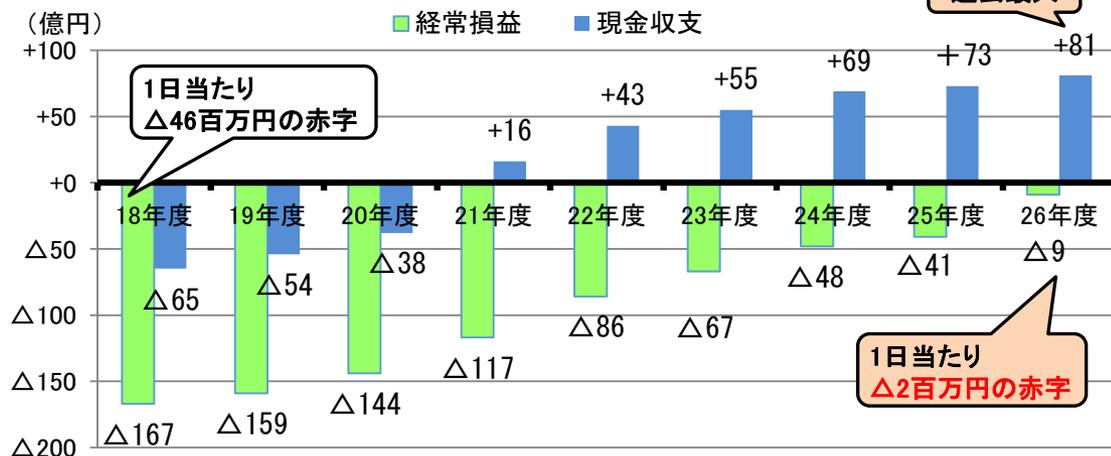
### (1) 旅客数の推移

(千人/日)

年度	21	22	23	24	25	26
旅客数	327	330	334	339	348	359
対前年度増加数	—	3	4	5	9	11

経営健全化計画の目標37万5千人まで，あと1万6千人

### (2) 経常損益等の推移



## 2 財政状況（前年度決算からの増減及び会計制度改正の影響）

（税抜額）

区分		25年度決算(A)		26年度決算(改正前B)		差引増△減(B-A)		26年度決算(改正後C)		改正影響額(C-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営業収益	252	85	258	65	5	80	258	65		0
	うち運輸収益	230	44	235	51	5	07	235	51		0
	営業外収益	31	53	26	37	△5	16	61	23	34	86
	うち一般会計補助金	31	03	25	74	△5	29	25	74		0
	うち長期前受金戻入額							34	85	34	85
	収入計	<b>284</b>	<b>38</b>	<b>285</b>	<b>02</b>		<b>64</b>	<b>319</b>	<b>88</b>	<b>34</b>	<b>86</b>
	営業費用	235	29	225	13	△10	16	244	65	19	52
	うち経常人件費	48	58	50	30	1	72	50	56		26
	うち退職手当	3	80	3	77	△	3		0	△3	77
	うち退職給付引当金繰入額							1	49	1	49
	うち経費	67	20	66	65	△	55	66	65		0
	うち減価償却費等	115	71	104	41	△11	30	125	95	21	54
	営業外費用	89	64	83	85	△5	79	83	85		0
	支出計	<b>324</b>	<b>93</b>	<b>308</b>	<b>98</b>	<b>△15</b>	<b>95</b>	<b>328</b>	<b>50</b>	<b>19</b>	<b>52</b>
差引	<b>△40</b>	<b>55</b>	<b>△23</b>	<b>96</b>	<b>16</b>	<b>59</b>	<b>△8</b>	<b>62</b>	<b>15</b>	<b>34</b>	
現金収支	<b>73</b>	<b>40</b>	<b>78</b>	<b>35</b>	<b>4</b>	<b>95</b>	<b>80</b>	<b>73</b>	<b>2</b>	<b>38</b>	
特別損益	△21	75	1	00	22	75	△36	33	△37	33	
再差引（純損益）	△62	30	△22	96	39	34	△44	95	△21	99	
その他未処分利益剰余金変動額							404	17	404	17	
△累積欠損金	<b>△3,468</b>	<b>21</b>	<b>△3,491</b>	<b>17</b>	<b>△22</b>	<b>96</b>	<b>△3,108</b>	<b>99</b>	<b>382</b>	<b>18</b>	
資本的収支	収入	218	51	242	22	23	71	242	22		0
	支出	295	14	324	08	28	94	324	10		2
	うち建設改良費	62	31	82	42	20	11	82	44		2
差引	△76	63	△81	86	△5	23	△81	88	△	2	
△累積資金不足	△309	16	△309	17	△	1	△309	17		0	
資金不足比率	<b>24.4%</b>		<b>17.9%</b>		<b>△6.5ポイント</b>		<b>14.8%</b>		<b>△3.1ポイント</b>		
年度末企業債等残高	4,214	69	4,066	55	△148	14	4,066	55		0	

※ の箇所は、会計制度改正による影響があった項目及びその影響額である。